

施設名/連絡先	展覧会名	会期	休館日
横尾忠則現代美術館 * ☎078-855-5607	・兵庫県政150周年記念事業 横尾忠則 在庫一掃大放出版	9/15(土)～12/24(月・振替休日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
BBプラザ美術館 ☎078-802-9286	・2018年度コレクション展II 明治から平成にみるコレクションのかたち	11/17(土)～2019/2/11(月・祝)	月曜(祝日の場合は翌日休館) 展示替え期館、年末年始
神戸市立博物館 ☎078-391-0035	リニューアル工事の休館のため特別展等はありません。	※休館(予定):2018/2/5(月)～2019/11/1(金)	
西宮市大谷記念美術館 ☎0798-33-0164	・土方重巳の世界展	10/6(土)～12/9(日)	水曜
芦屋市立美術館 ☎0797-38-5432	・富田碎花展—受け継がれる詞(うた)—	9/22(土)～11/25(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
伊丹市立美術館 ☎072-772-7447	・ゴヤ 理性のねむり 「ロス・カプリチオス」にみる奇想と創意	10/6(土)～12/24(振替休日)	月曜(祝日の場合は翌日休館) 臨時休館:11/12(月)～11/16(金)
尼崎市総合文化センター ☎06-6487-0806	(美術ホール) ・没後10年 白髪一雄 水滸伝豪傑シリーズ —アクション・ペインティングによる豪放の世界— (白髪一雄記念室) ・第12回展示 「中国への憧れ」	11/10(土)～12/16(日)	(美術ホール)火曜 (白髪一雄記念室)火曜 ※臨時休館
兵庫県立歴史博物館 * ☎079-288-9011	・ほろよい・ひょうご一酒と人の文化史—	10/6(土)～11/25(日)	10/26(金)～11/2(金) 12/29(土)～1/3(木)
姫路市立美術館 * ☎079-222-2288	館内改修のため企画展、常設展等はありません。	※休館(予定):2018/8～2019/2	
兵庫陶芸美術館 * ☎079-597-3961	・兵庫県政150周年記念事業 「没後50年 河井寛次郎展 —過去が咲いてゐる今、未来の蕾で一杯な今—」	9/22(土)～12/9(日)	月曜 (祝日の場合は翌平日休館)
滋賀県立近代美術館 ☎077-543-2111	改修・増築工事の長期休館のため企画展等はありませんが、各種イベントがあります。		

\*印がついている施設では、会員証の提示で割引などの特典が受けられます。上記の展覧会内容、休館日等は、各施設の都合により変更する場合があります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

## 美術館をのぞく Part2

### ～ボランティア こども班をのぞく～

兵庫県立美術館では、総勢215名のボランティアが主に資料班・解説班・こども班の3つに分かれ活動しています(4月1日現在)。日々、その姿を見かけますが、皆さんとてもパワフル!そんなボランティアさんのパワーの秘密に迫るべく、今回はこども班の2人にお話を伺いました。

こども班の主な活動は、美術館の実施する「こどものイベント」のサポートです。取材当日の8月25日は、ブラド美術館展の関連イベント「劇的な写真をとろう!」の日。スペイン絵画に描かれた物語の一場面を、照明や小道具を使ってカメラの前で表現します。まず、1人目は気さくな永原さん。グループでの活動が多いこども班ではチームワークが重要、「それぞれ得意なことを活かし、協力しながらやっています」とのこと。大変なのはイベントの準備!例えば、「劇的な写真をとろう!」では実際に念入りにリハーサルをしたそうで、王様や召使いに扮した班のメンバーで、劇的な表情やポーズを試行錯誤したのだとか。そんな永原さんの活動の醍醐味は、こどもの変化を目の当たりにすること。「さっきまで作品づくりに悩んでいた子が、リミッターを外れたかのように動き出すんですよ」としみじみ話されました。

2人目はイベちゃん・ントちゃんバッチがお似合いの中村さん。こども班の活動を始める前も、20代の頃からボランティアなどいろんな形でこどもと関わってきたとのこと。こどもと“長期的に関わる”これまでの経験と違い、基本的に1日の「こどものイベント」では、初対面で性格も様々なこどもたちと短時間で距離を縮めていくことや、みんなに同じように接することは難しいと話されます。でも、“その日だけの縁”を大事にしているそうです。また、何度かイベントに参加するこどもたちもあり、その姿から成長を感じられることが喜びだそうです。

やりがいや目標を持ってパワフルに活動されるボランティアの方々。美術館を支えるその力の大きさを実感した一日でした。平成31年度のボランティアの募集は11月頃からです。ご興味のある方は、ぜひお申込ください!(詳しくは美術館HPをご覧ください。)



（黒田/事務局）

## 共催展 無時無刻 — いつ、いかなる時も — 蘇笑柏(ス・シャオバイ)展

中国の作家による漆を用いた作品の展覧会を開催します。ふるってご来場ください。

会期: 2018年10月12日(金)～11月28日(水)	休館日: 月曜日
会場: 当館ギャラリー棟3F	入場料: 無料
開館時間: 10:00～18:00	主催: TKG Foundation for Arts & Culture
※金・土曜日は20:00まで(ただし10月19、20、26日を除く)	
※最終入場は閉館の30分前まで	



《酒脱》2017年

### ◆友の会スタッフより

今年のアツはナツかったですね(この文は炎天下の甲子園で繰り広げられる高校野球の熱戦を横目でにらみつつ書いております)。さて、いよいよ「芸術の秋」の到来ですね。私は“やきもの”が好きなので、秋に開催されることの多い陶器市に行きたいと考えています。近場では以前に友の会で足を運んだ丹波焼が頭に浮かびますが、頑張って足を延ばして四国の砥部焼、九州の唐津焼などにも行ってみたいですね。でも陶器市はどことも多くの人で賑わうので、あえて時期を前後にずらして、土地の秋の味覚と合わせてゆっくりと楽しんでようかなとも思っています。皆さんはどのようなお楽しみを計画されているでしょうか?お勤めの場所・催し等がありましたら事務局まで是非お知らせ下さい。次年度の企画の参考とさせていただきます。(米田健司/副会長・企画運営委員)

### 平成30年度「芸術の館友の会」会員特典のご案内

友の会では様々な特典がございます。会員の皆様はぜひご利用くださいませ。

特典内容については、兵庫県立美術館「芸術の館友の会」ホームページをご覧ください。

**兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員特典** で検索

※特典のご利用には会員証のご提示が必要です。

「ミュージアムぐるっとバス・関西2018」友の会カウンターにて特別価格で販売中!  
(詳しくは、上記検索に従い「友の会ホームページ」をご覧ください。)

ウェブ版パスワード  
**STDY15**

編集後記 今年度3号目の会報誌、編集長の江上芸芸より「やってみれば?」と、アドバイスを貰いながらなんと一人で完成まで漕ぎ着けようとしています。思えば一年前、編集長・西田芸芸のもとピンパン指導を受けていた頃、初めての会報誌で任されたのは「編集後記」だけでした(編集はしていません)。なんだか少し感慨深いです…いや、まだまだ!これからもがんばります。(黒田/事務局)

# Sea Front

シーフロント

OCT.2018

10

## サヴィニャック パリにかけた ポスターの魔法

2018年10月27日(土) — 12月24日(月・振替休日)

みなさまは、20世紀フランスを代表するポスター作家、レイモン・サヴィニャック(Raymond Savignac, 1907-2002)のことをご存じでしょうか。名前にはピンと来なくても、お洒落でユーモラスで親しみのある作品は見たことがあるという方も多いのではないのでしょうか。

フランスでは19世紀後半からポスターの制作と普及が盛んになります。アール・ヌーヴォーの時代には、鮮やかな色彩が特徴的なジュール・シュレや美しく優雅な女性を花で囲んだアルフォンス・ミュシャ、斬新な構図を得意としたアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレックらのポスターが街を彩りました。20世紀に入るとポスター文化はますます花開き、エアブラシのような最新技術を駆使したアドルフ・ムーロン・カッサンドルやシャルル・ルーボ、ジャン・カルリュ、ポール・コランらの作品が人気を博します。「一週間ごとに、面白いポスターが現れる。壁という壁が、ポスターで燃え上がっていた」<sup>1</sup>というこの時期に、若きサヴィニャックは彼らのポスターから大きく刺激を受けました。そして第二次大戦後、ついにサヴィニャックの時代がやってきます。彼の作品の一番の特徴は、メッセージを一つに集約したことにあるでしょう。一枚のポスターに一つの主要なイメージを置き、ぱっと見ただけで何を伝え



《牛乳石鹸モンサヴォン》1948/50年  
パリ市フォルネー図書館蔵 ©Annie Charpentier 2018

ようとしているのかが分かるシンプルなデザイン。しかし、そこにたどり着くまでには、広報の対象やテーマをぎゅっと凝縮させて、可能な限り構成を簡略化するという試行錯誤が重ねられています。それを自分の手法としたサヴィニャックは柔軟な思考力の持ち主だったのでしょね。そしてもう一つの特徴は、作品にエスプリ、つまり機知や才気が光っていることにあります。例えば、《マギー・チキン・ブイヨン》では、にこっと笑顔でスープを飲む雄鶏が描かれていますが、よく見るとスープが入ってるお皿は彼の下半身のようなのです。そう、自分を犠牲にしてできあがったスープを味わう鶏…なかなかシュールです。ちなみに、当館所蔵の吉村益信作《豚・pig lib;》(1971年)は、このサヴィニャックのアイデアを発生源にしているもので、台座には彼の名前が記されています。このような独自のスタイルで次々と名作を生み出し、フランスのみならず日本も含めた様々な国をそのポスターで賑わせたサヴィニャックですが、ポスター作家としてのデビューは必ずしも早くはありませんでした。15歳の頃から交通公団や映画工房に画工として勤めますが、芸術家としての正規の教育は受けていません。3度の兵役を経た第二次大戦後、不況で失職してしまった時に、友人と自主的に行った展覧会に出した作品が広告代理店の社長の目にとまり、出世作《牛乳石鹸モンサヴォン》が誕生したのです。この時サヴィニャックは41歳になっていました。

本展では、サヴィニャックのポスター約90点を一挙にご紹介します。日本人にも身近なペリエ、ティファール、オレンジナ、ダンロップなどの商品は、サヴィニャックの手にかかるとどのようなポスターになったのでしょうか。また、サヴィニャックによる原画や下絵のほか、実際に使った画材なども合わせて展示しますので、彼の制作方法にもぜひ注目してみてください。そして、ロベール・ドアンや木村伊兵衛が捉えたパリの街角の写真からは、サヴィニャックのポスターが通りをどのように彩ったのか、当時の様子を見ることができるよう。(小野尚子/当館学芸員)



《マギー・チキンブイヨン》1962年 /パリ市フォルネー図書館蔵 ©Annie Charpentier 2018

1 レイモン・サヴィニャック著、橋本順一訳「レイモン・サヴィニャック自伝」(TOブックス、2007年)P.110.



## 第4回 友の会塾 「チャンネル9 和田淳さんとの集い」 11月11日(日)

作家さんから直接お話を聞き、作品への理解を深める「友の会塾」。4回目を迎える今年は、チャンネル9の出品作家である和田淳さん(右頁参照)を講師にお招きします。第1部では、和田さんの過去の作品鑑賞とともに制作にまつわる様々なお話を伺い、第2部では、お茶やお菓子をいただきながら、作家さんを囲んでさらに「深い」お話を伺います。第2部は友の会会員様限定のイベントです!皆様のご参加をお待ちしております。

**第1部「和田淳 アーティスト・トーク+上映会」13:30~14:30** レクチャールーム(当館1F)にて、先着100名(一般含む)、申込不要、聴講無料  
**第2部「アーティストとの交流会」15:00~16:00** レストラン(当館2F)にて、20名(会員限定)、要申込、参加費  
 ※詳しくは同封チラシにて

## 新企画 「県美発!ミニFM・ラジオ美かえる」放送します! 11月24日(土)・25日(日)

先月号でお知らせしました新企画、いよいよ、11月24日・25日の「関西文化の日」にミニFM番組を放送します!館内エントランスホールの一隅のラジオブースから地域や美術館の話題を発信!館内とその周辺の限られたエリアでのみ受信可能、館敷地内の様々な場所に置かれた受信用ラジオでお聴きいただけます。ぜひ聴きに来てください!

放送時間:両日とも 11:00~16:00、当館エントランスホールから放送予定  
 ※受信用ラジオは館内のミュージアムショップ・カフェ・レストランなどに設置予定です。  
 (詳細は公式Facebook参照/アカウント:ラジオ美かえる)  
 ※「関西文化の日」とは…関西が誇る豊かな文化に気軽に接していただく日。当館では11月24日(土)・25日(日)に多彩なプログラムを開催します!

## ラジオサポーターより皆様へ「してもらふこと」と「できること」

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」は、美術を愛するみなさんが集い、兵庫県立美術館の活動をサポートする会です。「美術と一緒に楽しみましょう!」と「入会のご案内」に謳っています。友の会が会員に提供している活動(してもらふこと)には、旅行、街歩き、保存修復室見学、友の会塾、懇親会などがあります。一方、会員が館をサポートする活動(できること)にはどのようなものがあるでしょう。会員自身が来館する。家族、友人、知人を誘って館に来たり、展覧会や館での催しを教える。協力店を利用する。などが考えられます。

今回、会員が、より積極的に館をサポートする活動が始まります。それは、「『兵庫県立美術館』と『まち』と『来館者』がつながるラジオ」という考えを基本に据えた「ミニFM・ラジオ美かえる」というミニFMラジオ放送です。関西文化の日が活動始めです。館内各所に置かれたラジオを通して展覧会の見所、館やまちの話題などを流す予定です。初めての試みで、うまくいくかどうかちょっと心配です。会員の皆さんに応援してもらえる息の長い活動になればうれしいです。(by I)

## 日帰りバス旅行 備前への旅 12月1日(土)

### 「特別史跡閑谷学校から現代アートまで」

隣県、岡山の備前市へ向かいます。世界最古の庶民のための公立学校旧閑谷学校にて国宝の講堂で論語を学び、FAN美術館/藤原啓記念館では、人間国宝藤原啓作の茶碗でお抹茶をいただきます。

※詳しくは同封チラシにて

## 友の会優先席のご案内 「サヴィニャック パリにかけたポスターの魔法」 記念講演会

サヴィニャック展では、2つの違った切り口で講演会を予定。サヴィニャックのドキュメンタリー映像を手がけた映画監督さんからは、生身の彼を知る人ならではの、とっておきのエピソードが聞けるかも。11月の講演会では、楽しくユーモラスな作品の魅力に、デザインの専門家の視点から迫ります。

①10月27日(土)【受付締切:10月22日(月)必着】  
**「レイモン・サヴィニャックの足跡をたどって」**  
 講師:ダニエル・コスト=ランパール氏(映画監督)

②11月25日(日)【受付締切:11月10日(土)必着】  
**「レイモン・サヴィニャック:そのアイデアとユーモア」**  
 講師:植木啓子氏(大阪新美術館建設準備室 研究副主幹)

会 場 ・ 時 間 : ミュージアムホール(当館ギャラリー棟1F)、14:00~(約90分)

募 集 座 席 : 10席

申 込 方 法 : 氏名・会員種類/会員番号・参加希望の講演会名をFAXまたはメールでお知らせいただくか、館内友の会カウンターまで。応募多数の場合は抽選。

申 込 先 : 兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局  
 FAX/078-262-0903  
 E-mail/tomonokai@artm.pref.hyogo.jp

※優先席とは…聴講は当日先着順のところ、会員専用聞きやすい座席を確保します(お席はこちらで指定します)。なお、優先席を利用されない場合、他のお客さまと同じく先着順のご入場にて聴講いただけます(観覧券として、会員証のご提示が必要です)。

## ガラス絵一日教室 7月22日(日)

ブラド美術館展を鑑賞した後、素晴らしい作品の数々に創作意欲を刺激されて、ガラス絵教室に参加しました。美術が得意なわけではないため不安でしたが、下絵も用意されており、先生が気さくに話してくださったおかげで、ぬり絵感覚で楽しめました。また、作業中はみなさんの作品から様々な表現方法を学びました。驚いたことに、出来上がった作品は同じ下絵でも全く違っていったのです。今、9センチ角の透明な世界にはどこにもない自分だけの景色が広がっています。約4時間あっという間でした。つくってみたい気持ちさえあれば、誰でもできます。日々のあれこれから解放されて癒されますよ。キラキラ光る涼しげなガラス絵のおかげで暑い夏を乗り切れそうです。(新田有紀/会員)



ガラス面にアクリル絵の具で絵を描きます。

## 県美プレミアムを味わう

### 収蔵品によるテーマ展 特集「類は友を呼ぶ」

2018年11月17日(土)~  
 2019年3月3日(日)

今年度最後の収蔵品展は、時間軸、空間軸を基にしたI期、II期とは違って、明快な基準がありません。タイトルの「類は友を呼ぶ」どおり、似たような作品と一緒に並べることをルールとします。

普段経験するように、似たもの同士というのは、違うことのほうがよく見えるものです。違いが大きすぎると、そもそも比べようという気にはならないし、逆にそっくりな場合は、ささいな違いにしか目が向かないおそれがあります。もしちょうどよいぐらいの違いであれば、作品をよく見、より理解できる機会となるのではないのでしょうか。あるいは、共通する要素から、今まで気づけなかったことが見えてくることもある



金山平三(無題(山頂の館))1913-15年  
 ※両作とも、遠近感の強い道を中央に配した風景画です。



金山平三(首里)1941年  
 ※両作とも、遠近感の強い道を中央に配した風景画です。

かもしれません。

もちろん、作品は1点1点個別に見るべきだというまっとうな意見があります。でも、いくつもの作品が並ぶ展覧会では、展覧会を作る側も見る側も作品同士を結び付けるのはごく自然のことです。その傾向を、いつもよりも少し強く押し出した展覧会にしたいと考えています。

この場合、もしコレクションの中に類似作品があり、それらを束ねることができれば、テーマは自由に設定できます。その利点を活かし、面白いテーマが設定できればいいのですが、自由だとかえってテーマを絞りがちになることに気づきました。悪戦苦闘しています。

(原 均/当館学芸員)

## 注目作家紹介プログラム チャンネル9 和田淳「私の沼」 2018年11月3日(土・祝)~12月2日(日)



和田淳《私の沼》2017年より ©Atsushi Wada

学芸員が最も注目すべきと考える作家を紹介してきたシリーズ「注目作家紹介プログラム チャンネル」。9回目となる今年の「チャンネル」では、国内外の映画祭で上演、受賞し、高い評価を得ているアニメーション作家、和田淳の個展を開催します。2002年頃から短編アニメーションの制作を始めた和田は、人や動物などさまざまなキャラクターが練り広げる、諧謔と不思議さに満ちた作品を制作しています。繊細な線描と透明感のある色彩による絵、「静」と「動」を反復しながらゆったりとしたテンポで進行していく構成、加えて意表を突く視点と展開が和田作品の大きな魅力であり、それらは作家の鋭い観察眼と洞察によって拓かれた独自の世界といえます。アニメーションは単なる「動く絵」ではありません。和田は、アニメーションとは描かれたものの「動き」そのものを本質とする芸術であるというノーマン・マクラレン※(1914-1987)の考え方を創作の基本にしているといえます。和田作品にみる時間的、空間的「間」は「動き」を本質とするアニメーションの真髄を具現化しているともいえるでしょう。本展では、和田淳の独創性あふれる映像世界を紹介、近年ますます関心を集めているアニメーションの魅力に迫ります。(※カナダの映像、アニメーション作家)

(飯尾由貴子/当館学芸員)

## ● 映画情報

いずれも500円(「砂の器」は友の会会員特別料金)でご覧いただけます!(会員証をご提示ください。)  
 ※詳しくは同封チラシにて

### KEN-Vi名画サロン 加藤剛、橋本忍追悼 兵庫県政150周年記念上映(10月上映)

10月13日(土)

『砂の器』(1974年/日本/2時間23分/監督:野村芳太郎) ①10:30 ②14:00

言わずと知れた松本清張原作のサスペンス。脚本の橋本忍(1918-2018)は兵庫県市川町の出身です(市川町立文化センター内に記念館あり)。本作の成功に気をよくした松竹は、同じ陣容で横溝正史原作の「八つ墓村」も制作しました(こっちは見たい)。さて、恒例のクイズです。「砂の器」の刑事役は丹波哲郎と森田健作ですが、松竹「八つ墓村」の金田一耕介役は?

### 県美シネマクラシック 10月・11月連続企画ヒッチコック特集(10月・11月上映)

10月26日(金)

『裏窓』(1954年/アメリカ/1時間53分/カラー/出演:グレース・ケリー、ジェームズ・スチュアート、セルマ・リッター)  
 ①10:30 ②14:00

11月16日(金)

『めまい』(1958年/アメリカ/2時間9分/カラー/出演:キム・ノヴァク、ジェームズ・スチュアート)  
 ①10:30 ②15:40  
 『見知らぬ乗客』(1951年/アメリカ/1時間43分/モノクロ/出演:ファーリー・グレンジャー、ロバート・ウォーカー)  
 ①13:30

ヒッチコックの映画は断然大きなサイズで見るのがよいと思う。テレビサイズだと変なところが普通に見えるし、ファーリー・グレンジャー(この人、ウィスコンティ映画にも出ている)の男前ぶりもイマイチに見える。  
 (映画案内人 西田桐子/当館学芸員)



©1954 Patron, Inc. Renewed 1982 Samuel Taylor & Patricia Hitchcock O'Connell. All rights reserved.

## 見学会 + 街歩き in 京都 6月26日(火) 初夏の京都、日本の近代の名品を訪ねて

豪雨来襲直前の陽光照りつける中、「見学会+街歩きin京都」が開催されました。まずは横山大観展を開催中の京都国立近代美術館へ。担当学芸員から熱い解説を1時間程拝聴後ゆっくりと実物を鑑賞したいところですが、平日にも係わらず大変な混み具合。『100年後に名を遺してこそその大家』の言葉が実現されています。続いてお隣の図書館にて記念撮影。向かいの京都市美術館改装後の姿を想像しつつ、有鄰館を経由して自宅兼職場を改装した並河靖之七宝記念館へ。釜場や柚葉まで都度解説を頂くことができ、高額な理由の一端を知ることができました。途中やや道を間違える事態も発生しましたが、大変楽しい一時を過ごすことができました。(高岡/会員)



京都府立図書館にて記念撮影。